



全校生徒が平田オリザさんのお話を聞きました。お話の中で、「列車や飛行機で、他人と隣り合わせた時に自分から声をかけますか」という問いかけに自分ならどうするかみんなで考えたり、話しかける人の気持ちを考えたりしました。

話を聞いた生徒は「納得する部分や面白いと思うところも多かったけど、私には難しい内容でした。理解できなくて悲しいけど、この経験を忘れずに、いろいろな人とコミュニケーションを取っていきたい」と話してくれました。



飯網町学習指導研究会とPTA講演会を兼ねて平田オリザさんから「新しい学力観、新しい学校観」というテーマで話を聞きました。

平田さんは、主体性、協働性、多様性を育むことは学校でしかできない。これからの学校教育で重要なのはエンパシー（異なる価値観、異なる文化的な背景をもった人の行動を理解すること）、そこに演劇的手法を使ったコミュニケーション教育が役立つと話していました。

【授業参観の感想】

- ・平田先生の授業の中で、飯網中の生徒の皆さんが、自分の言葉として台詞を考え合う姿を見て、きっと普段から生徒の皆さんの関係がいいのだろうと思いますが、自由に表現できたり、グループ内で折り合いをつけながら一つのものを作ったりするという体験が、さらに深い学びへとつながっていると実感しました。授業が終わった後、満足感や達成感を感じているのか、嬉しそうな表情で教室に戻る生徒の皆さんが印象的でした。

【講演の感想】

- ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、生徒が安心して発言できる環境づくりや、生徒同士が考えを共有し合う関わりが大切であることを学びました。また、教師が一方的に教えるのではなく生徒の興味や好奇心を引き出し、自ら考え、学ぼうとする意欲を高めることの重要性を感じました。私も、生徒たちの興味や好奇心を大切にし、自ら考えたり挑戦したりする姿勢を支えられるようになりたいと思いました。そのためにも、生徒ひとり一人がもつ可能性を伸ばせるように、安心して挑戦できる環境づくりや関わりを大切にしていきたいです。
- ・日々の生活の中で、子どもより大人の方が、コミュニケーション能力が低いのではないかと思うことがある。大人こそ相手の文脈を理解することや自分の誤りを修正することを意識してコミュニケーション力を高めたいと思った。